

コレが
気になる

CINEMA 編

結びの島

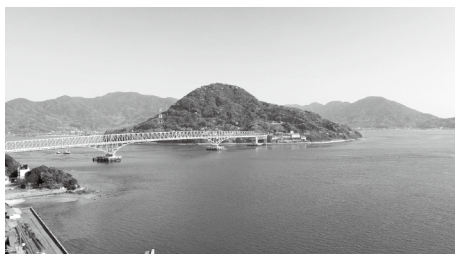
『いのちがいちばん輝く日』（2012年）、『四万十 いのちの仕舞い』（2017年）に続く、溝渕雅幸監督の作品第三弾となる『結びの島』は、山口県にある周防大島で無床の診療所と複合型コミュニティ介護施設を営む医師、岡原仁志氏に密着した。岡原医師は高齢者が豊かな老後を過ごすために安心して暮らすことができる社会とは？を問い続け、「自分らしく暮らしたい」「島でいのちを仕舞いたい」という島の人々の思いを「ハグとユーモアで、心と身体を癒す」をテーマにして支える活動をしている。

島の人々の交流を中心に、四季折々の周防大島の綺麗な風景の中、1年9カ月の間、計35日間にわたり撮影されたドキュメンタリー映画である。

2019年に本誌で溝渕監督にインタビューを行った際、「息を引き取るまでの過程が看取りの時間で、物理的に距離が離れていても、常にその人のことを思っていることでも看取りになる」とおっしゃっていたことが印象的だった。溝渕監督は、常に看取る側・看取られる側の両面から人の暮らしを描いているが、最新作『結びの島』では、「看取る」ということは死にゆく人だけでなく、残る家族たちに生きる希望を与える要素もある

ことが描かれた作品だと感じた。「豊かな生」や「豊かな死」について考えさせられる作品であり、これはそう遠くない、未来の日本の姿であるのかもしれない。

（編集室）



©株式会社ディンギーズ

【映画の情報】

映画『結びの島』

2020年10月MOVIX 周南での公開を皮切りに、
全国公開予定

監督/溝渕雅幸

出演/岡原仁志医師、周防大島の皆さん

音楽/ザビエル大村 語り/とりばみ はる

撮影/長谷川智章、落合温史

製作・配給/株式会社ディンギーズ

上映時間/108分

最新情報は公式HPでご確認ください。

<https://www.inochi-hospice.com/>